

NIE
実践校から
〈5〉

生駒市立光明中学校

奈良県生駒市立光明中学校の2年生が7月、「明るい社会」の実現に必要なことを作文するために新聞記事を読む授業に臨んだ。生徒たちは新聞から「明るいニュース」と「暗いニュース」を見つけ出し、なぜその記事を選んだか説明し合った。

新聞記事を素材に物事を複眼的、立体的に見る力を養うとともに、社会を明るくするために求められることを考えて文章化する国語の授業。2年2組では生徒約40人が班に分かれ、篠原嶺教諭(28)から説明を受けた後、本紙7月12日付朝刊などの各ページを熱心に読んだ。

生徒たちは明るいニュースとして、プロ野球日本ハムの大谷翔平選手の今季初先発が決まったことを報じる記事などを選択。暗いニュースには九州北部豪雨で起きた土砂崩れが「深層崩壊」の可能性が高いことが分



新聞から「明るいニュース」「暗いニュース」を探す生徒たち
— 奈良県生駒市の市立光明中学校

「明るい社会」記事もとに考える

かったことを伝える記事などを選び、それぞれ「復帰したから」、「消防団員が亡くなったから」などと理由を説明。

さらに、豪雨から1週間を報じた「地域の『匠』 再会信じ」「愛する『娘』 離さない」といった記事について、篠原教諭が「暗いニュース？ 明るいニュース？」と問いかけ、とらえ方や立

場によって同じ記事でも異なって感じられることを示した。

授業後、岡崎壮史さん(13)は「おもしろかった。普段は新聞を読まないのに、新聞に触れられる機会が与えられよかった」、喜夕田慧大さん(13)は「記事の違った見方ができ、新しい発見だった」と話していた。(岩口利一)